

令和3年度 事前評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	農村総合整備事業（加納・寺田地区）	
担当部署	環境農林水産部 南河内農と緑の総合事務所 耕地課（連絡先 0721-25-1131）	
事業箇所	南河内郡河南町大字加納、大字寺田	
事業目的	<p>本地区は、河南町の西部に位置し、水稻を中心とした営農が行われている。ほ場は不整形で狭い区画が多く、耕作道路は狭小で小型車両しか通行できず、水路は老朽化し漏水が見られ、効率的な営農を行う上で支障をきたしている。</p> <p>また、本地区では高齢化が進んでいる上、後継者が不足しており、担い手の確保が喫緊の課題となっている。</p> <p>このため、農村総合整備事業により農地の集団化や用排水路・道路の整備を行い優良な営農環境を確保し、農業生産性・収益性を向上させるとともに、当該地区内の農用地を本地区の若手農家が中心となり設立した法人に集積・集約し、本地区の担い手を確保することで、農業構造の改善に資することを目的とする。</p>	
事業内容	<p>○ほ場整備 地区面積 18.0ha（受益面積 14.9ha）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整地工…14.9 ha ・道路工… 2.6 km ・用水路工… 1.8 km（開水路） ・排水路工… 1.9 km（開水路） 	
事業費	<p>全体事業費：4.8億円【国：3億円、府：1.3億円、町：0.5億円】</p> <p>国事業：農地中間管理機構関連農地整備事業を活用 （内訳）工事費：3.0億円 測量試験費、換地費：1.8億円（内 文化財調査費 約0.6億円）</p>	
	<p>【事業費の積算根拠】</p> <p>既存資料及び現地での調査結果を基に、工事数量を算定し、積み上げにより事業費を算出した。</p>	<p>【工事費の内訳】</p> <p>整地工 1.1億円 道路工 0.9億円 用水路工 0.3億円 排水路工 0.7億円</p>
事業費の変動要因	<p>【他事業者との協議状況】</p> <p>該当なし</p> <p>【今後の事業費変動要因の予測】</p> <p>文化財試掘調査結果により、文化財本調査費用及び文化財保護盛土費用の事業費が変動する可能性がある。</p> <p>また盛土材搬入において調達先の調整結果により、事業費が変動する可能性がある。</p>	
維持管理費	<p>なし</p> <p>（整備後、土地改良換地により機能交換及び創設される道路・水路は河南町へ引き渡すため）</p>	
関連事業	<p>農地中間管理事業</p> <p>（本事業は全ての農用地について、農地中間管理事業での農地貸借を条件としている。）</p>	

2 事業の必要性等に関する視点

上位計画等における位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府都市農業の推進及び農空間の保全と活用に関する条例（H30.4） ・大阪府新農林水産振興ビジョン（H24.3） ・新たなおおさか農政アクションプラン（H29.8）
優先度	<ul style="list-style-type: none"> ・「大阪府都市農業の推進及び農空間の保全と活用に関する条例」の農空間保全地域制度では、地域単位で取り組む農地の利用促進に関する計画（農空間づくりプラン）の実現を関係機関とともに支援し、農空間の保全・活用を進めることとしている。 ・本地区では、同条例に基づき「北加納・南加納・寺田地区農空間づくり協議会」を設立し、令和2年度に農空間づくりプランを策定している。プランにおける地区の課題として後継者不足による将来的な耕作放棄地の増加を挙げており、この課題に対応するための将来像として、地域の若手農家が中心となった集落営農組織を掲げている。将来像の実現に向け、既に新たな担い手となる「かののさと合同会社」を設立しており、農地転貸に係る諸手続きも11月に完了するなど、地区の課題解決に向けて意欲的に取り組んでいる。 ・本地区は新たな担い手への農地の利用集積による高収益型農業への転換をめざしており、「新たなおおさか農政アクションプラン」における「重要な産業としての大阪農業の振興」に資するもので、農業のビジネス化の推進を図るため、農の成長産業化、強い大阪農業づくりに向け、早期に実現する必要がある。

事業を巡る 社会経済情 勢等	<p>【国の政策】</p> <p>○農林水産省の政策目標として、担い手が利用する面積が令和5年度までに全農地面積の8割となるよう農地集積を推進するとしており、担い手への農地の集積・集約化を加速化するため、農地中間管理機構が借り入れている農地について、農家負担なしで区画整理等を実施する農地中間管理機構関連農地整備事業を創設。</p> <p>【河南町の状況】</p> <p>○河南町は大阪府の南東部に位置し、道路交通は広域連携軸として国道309号が南西部にあり、中央部を主要地方道柏原駒ヶ谷千早赤阪線が南北に縦貫しており、大阪市内へは約30分の立地である。</p> <p>○現在は水稻を中心に営農を行っているが、農業を取り巻く厳しい状況から、耕地面積や農家数等が大きく減少するとともに耕作放棄地が増加している。</p>																																																			
	<p>〈農林業センサス〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>耕地面積</th> <th>農家数</th> <th>稲作</th> <th>野菜類</th> <th>果樹</th> <th>耕作放棄地</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2010年</td> <td>305ha</td> <td>772戸</td> <td>68ha</td> <td>22ha</td> <td>8ha</td> <td>22ha</td> </tr> <tr> <td>2015年</td> <td>256ha</td> <td>709戸</td> <td>51ha</td> <td>22ha</td> <td>5ha</td> <td>24ha</td> </tr> <tr> <td>2010年比</td> <td>△49ha</td> <td>△63戸</td> <td>△17ha</td> <td>0ha</td> <td>△3ha</td> <td>2ha</td> </tr> </tbody> </table>		耕地面積	農家数	稲作	野菜類	果樹	耕作放棄地	2010年	305ha	772戸	68ha	22ha	8ha	22ha	2015年	256ha	709戸	51ha	22ha	5ha	24ha	2010年比	△49ha	△63戸	△17ha	0ha	△3ha	2ha																							
		耕地面積	農家数	稲作	野菜類	果樹	耕作放棄地																																													
	2010年	305ha	772戸	68ha	22ha	8ha	22ha																																													
	2015年	256ha	709戸	51ha	22ha	5ha	24ha																																													
	2010年比	△49ha	△63戸	△17ha	0ha	△3ha	2ha																																													
	<p>【事業地区内の状況】</p> <p>○地区の概要</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地区面積</th> <th>農地面積</th> <th>道水路</th> <th>受益者数</th> <th>筆数</th> <th>平均区画面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18.0ha</td> <td>17.1ha</td> <td>0.9ha</td> <td>66人</td> <td>284筆</td> <td>約6a</td> </tr> </tbody> </table> <p>○70代以上の農業従事者の割合が高く、加えて後継者がいる割合も極めて少ないことから担い手の確保が喫緊の課題となっている。</p> <p>〈農業に従事する人の年齢構成〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">割合</th> </tr> <tr> <th>加納・寺田地区</th> <th>河南町</th> <th>大阪府</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30代以下</td> <td>1.5%</td> <td>0.9%</td> <td>1.2%</td> </tr> <tr> <td>40代</td> <td>7.6%</td> <td>4.5%</td> <td>4.6%</td> </tr> <tr> <td>50代</td> <td>21.2%</td> <td>13.5%</td> <td>16.1%</td> </tr> <tr> <td>60代</td> <td>21.2%</td> <td>41.1%</td> <td>35.1%</td> </tr> <tr> <td>70代</td> <td>37.9%</td> <td>29.5%</td> <td>28.3%</td> </tr> <tr> <td>80代以上</td> <td>10.6%</td> <td>10.5%</td> <td>14.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>資料：加納・寺田地区は農空間づくりプラン、大阪府・河南町は農林業センサス2015年データ</p> <p>〈後継者がいる割合〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>加納・寺田地区</th> <th>河南町</th> <th>大阪府</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割合</td> <td>19.7%</td> <td>53.9%</td> <td>59.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>資料：加納・寺田地区は農空間づくりプラン、大阪府・河南町は農林業センサス2015年データ</p>	地区面積	農地面積	道水路	受益者数	筆数	平均区画面積	18.0ha	17.1ha	0.9ha	66人	284筆	約6a		割合			加納・寺田地区	河南町	大阪府	30代以下	1.5%	0.9%	1.2%	40代	7.6%	4.5%	4.6%	50代	21.2%	13.5%	16.1%	60代	21.2%	41.1%	35.1%	70代	37.9%	29.5%	28.3%	80代以上	10.6%	10.5%	14.7%		加納・寺田地区	河南町	大阪府	割合	19.7%	53.9%	59.4%
	地区面積	農地面積	道水路	受益者数	筆数	平均区画面積																																														
	18.0ha	17.1ha	0.9ha	66人	284筆	約6a																																														
		割合																																																		
加納・寺田地区		河南町	大阪府																																																	
30代以下	1.5%	0.9%	1.2%																																																	
40代	7.6%	4.5%	4.6%																																																	
50代	21.2%	13.5%	16.1%																																																	
60代	21.2%	41.1%	35.1%																																																	
70代	37.9%	29.5%	28.3%																																																	
80代以上	10.6%	10.5%	14.7%																																																	
	加納・寺田地区	河南町	大阪府																																																	
割合	19.7%	53.9%	59.4%																																																	

事業を巡る 社会経済情 勢等	<p>○本地区は河南町西部に位置し、平石川周辺の平野部に広がる農業地域で、水稻を中心とした営農が行われている。</p> <p>○大和川水系梅川を用水源とするほ場はいびつで狭い区画が多く、水路は老朽化し漏水も見られる。農道も未整備狭小であり、効率的な営農を行う上で支障をきたしている。</p> <p>○高齢化、担い手不足等の地域農業の課題解決を目指し、新たな担い手への農地利用集積や、そのための区画の拡大、道路・用排水路の整備を早急に行う必要がある。</p> <p>○協議会ではアンケート結果を基に議論を重ね、令和2年度に「北加納・南加納・寺田地区農空間づくりプラン」を策定した。</p> <p>プランの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落営農組織による計画的な農業経営と担い手の確保 ・高収益作物への転換、地域特産物の開発 ・上記実現のためのほ場整備の実施 																
地元の 協力体制等	<p>○令和2年7月に地元農家による「北加納・南加納・寺田地区農空間づくり協議会」が設立されており、地元の協力体制が整っている。また、本地区の営農の担い手として、「かののさと合同会社」が令和3年5月に設立され、8月には認定農業者に認定されている。</p> <p>○本事業の実施にあたっては、河南町、河南町農業委員会、水利組合、実行組合、JA、(一財)大阪府みどり公社の全面的な協力を得ることができる。</p>																
事業の投資 効果 ＜費用便益 分析＞ または ＜代替指標 ＞	<p>【費用便益分析】</p> <p>○総費用総便益比：1.37</p> <p>・総便益額 B=694,730千円(①～⑥)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>効果項目</th> <th>総便益額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①作物生産効果</td> <td>166,832千円</td> </tr> <tr> <td>②品質向上効果</td> <td>11,377千円</td> </tr> <tr> <td>③営農経費節減効果</td> <td>318,380千円</td> </tr> <tr> <td>④維持管理費節減効果</td> <td>△2,508千円</td> </tr> <tr> <td>⑤耕作放棄防止効果</td> <td>867千円</td> </tr> <tr> <td>⑥国産農産物安定供給効果</td> <td>199,782千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>694,730千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>・総費用 503,623千円(①+②)</p> <p>①当該事業費 383,212千円</p> <p>②その他費用 120,411千円</p> <p>(評価期間再整備費－評価終了時資産価額)</p> <p>【算定根拠】</p> <p>○新たな土地改良の効果算定マニュアルによる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総便益 <p>事業実施により、大型の農業機械導入が可能になることなどに伴う作付面積や収量が増加する作物生産効果や、国産農産物が安定的に供給される安心感を国民が享受できる国産農産物安定供給効果など、評価期間における効果額を現在価値化し算出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総費用 <p>当該事業による費用に資産価額及び評価期間(当該事業の工事期間+40年)における再整備費を加え、評価期間終了時点の資産価額を減じた事業費を現在価値化し算出</p>	効果項目	総便益額	①作物生産効果	166,832千円	②品質向上効果	11,377千円	③営農経費節減効果	318,380千円	④維持管理費節減効果	△2,508千円	⑤耕作放棄防止効果	867千円	⑥国産農産物安定供給効果	199,782千円	計	694,730千円
効果項目	総便益額																
①作物生産効果	166,832千円																
②品質向上効果	11,377千円																
③営農経費節減効果	318,380千円																
④維持管理費節減効果	△2,508千円																
⑤耕作放棄防止効果	867千円																
⑥国産農産物安定供給効果	199,782千円																
計	694,730千円																

	<p>【事業完了後5年以内の担い手^{*1}への集団化】</p> <table border="1"> <tr> <td>担い手への集団化率</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>現況</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>100%</td> </tr> </table>	担い手への集団化率	増加	現況	0%	計画	100%	<p>全ての農地を「かののさと合同会社」に集団化</p> <p><採択要件></p> <p>80%以上</p> <p>高収益作物（水なす、にんじん、ねぎ、みずな等）の増による販売額向上</p> <p>現況作物：水稲(14.2ha)、水なす(0.1ha)、にんじん(0.6ha)、みずな(裏1.1ha)</p> <p>計画作物：水稲(6.6ha)、水なす(1.0ha)、にんじん(3.0ha)、ねぎ(3.0ha)、みずな(裏3.1ha)</p> <p><採択要件></p> <p>事業完了後5年で販売額20%以上向上することが見込まれること</p>
	担い手への集団化率	増加						
現況	0%							
計画	100%							
<p>【販売額向上割合】</p> <table border="1"> <tr> <td>販売額</td> <td>向上率</td> </tr> <tr> <td>現況</td> <td>25,905千円</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>146,489千円</td> </tr> </table> <p>※1 担い手とは、農業経営基盤強化促進法にもとづく市町村認定を受けた認定農業者及び認定新規就農者など</p>	販売額	向上率	現況	25,905千円	計画	146,489千円	<p>高収益作物（水なす、にんじん、ねぎ、みずな等）の増による販売額向上</p> <p>現況作物：水稲(14.2ha)、水なす(0.1ha)、にんじん(0.6ha)、みずな(裏1.1ha)</p> <p>計画作物：水稲(6.6ha)、水なす(1.0ha)、にんじん(3.0ha)、ねぎ(3.0ha)、みずな(裏3.1ha)</p> <p><採択要件></p> <p>事業完了後5年で販売額20%以上向上することが見込まれること</p>	
販売額	向上率							
現況	25,905千円							
計画	146,489千円							
事業効果の定性的分析（安心・安全、活力、快適性等の有効性）	<p>○ほ場整備により効率的な農作業体系を確立することで、新たな担い手であるかののさと合同会社の経営が安定して、農地が保全され、農空間が有する防災や景観形成等の機能が継続して発揮される。</p> <p>○水稲から野菜等の高収益作物へ転換し、効率的な農作業体系のもと生産性の高い営農を展開し、販路についてJAと連携することにより販売額の向上が見込まれる。加えて、道の駅や直売所で地元の新鮮な農作物を提供することで、府民に対する安心・安全の提供、地産地消の促進につながる。</p>							

3 事業の進捗の見込みの視点

事業段階ごとの進捗予定と効果	R3 基本計画の策定					
	R4 農村総合整備事業として着手予定					
		R4	R5	R6	R7	R8
進捗予定	測量 文化財調査	実施設計 換地計画	整地工 道路工 水路工	整地工 道路工 水路工	整地工 道路工 水路工	確定測量 換地処分
効果	地区境界の確定	工事実施計画及び換地計画の樹立	営農環境の改善 (R7以降順次営農開始)			全面的な営農展開 地籍確定
完成予定年度	令和9年度					

4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

代替手法との比較検討	【代替手法との比較検討】		
		第1案	第2案
	実施方法	ほ場整備	農道・水路の整備
	工事	・区画の整形と併せて農道、水路の合理的な路線配置が可能 ○	・狭小で不整形な区画が改善されない。 ・現況に合わせた道水路設置により効率が悪い ×
	担い手への集積・集約	農地の区画拡大や集団化が図れるとともに、農地中間管理事業により意欲ある担い手に集約しやすい ○	各農家の農地が分散しており、意欲ある担い手への計画的な集積・集約は限定的 △
総合判定	○	△	
コスト縮減	事業地区の一部が文化財の周知の包蔵地（加納古墳群・加納遺跡）にあるため、文化財調査が不要となる盛土工法を基本とし、文化財調査費用の低減を図る。		

5 特記事項

自然環境等への影響とその対策	<p>・本地区は文化財の周知の包蔵地（加納古墳群・加納遺跡）にあるため、調査を実施し、保護が必要となる場合は適切な措置を講じる。</p> <p>・排出ガス対策型や低騒音・低振動型の建設機械を使用するなど、環境に配慮した施工を行う。</p>
その他特記事項	なし

6 評価結果

評価結果	<p>○事業実施</p> <p><判断理由></p> <p>農村総合整備事業（加納・寺田地区）については、ほ場整備を行うことで、本地区内の農用地が新たな担い手に集積・集約され、農業生産力が向上するとともに、地元の新鮮な農作物をより多くの府民に提供されることが期待されるため、「事業実施は妥当」と判断する。</p>
------	--